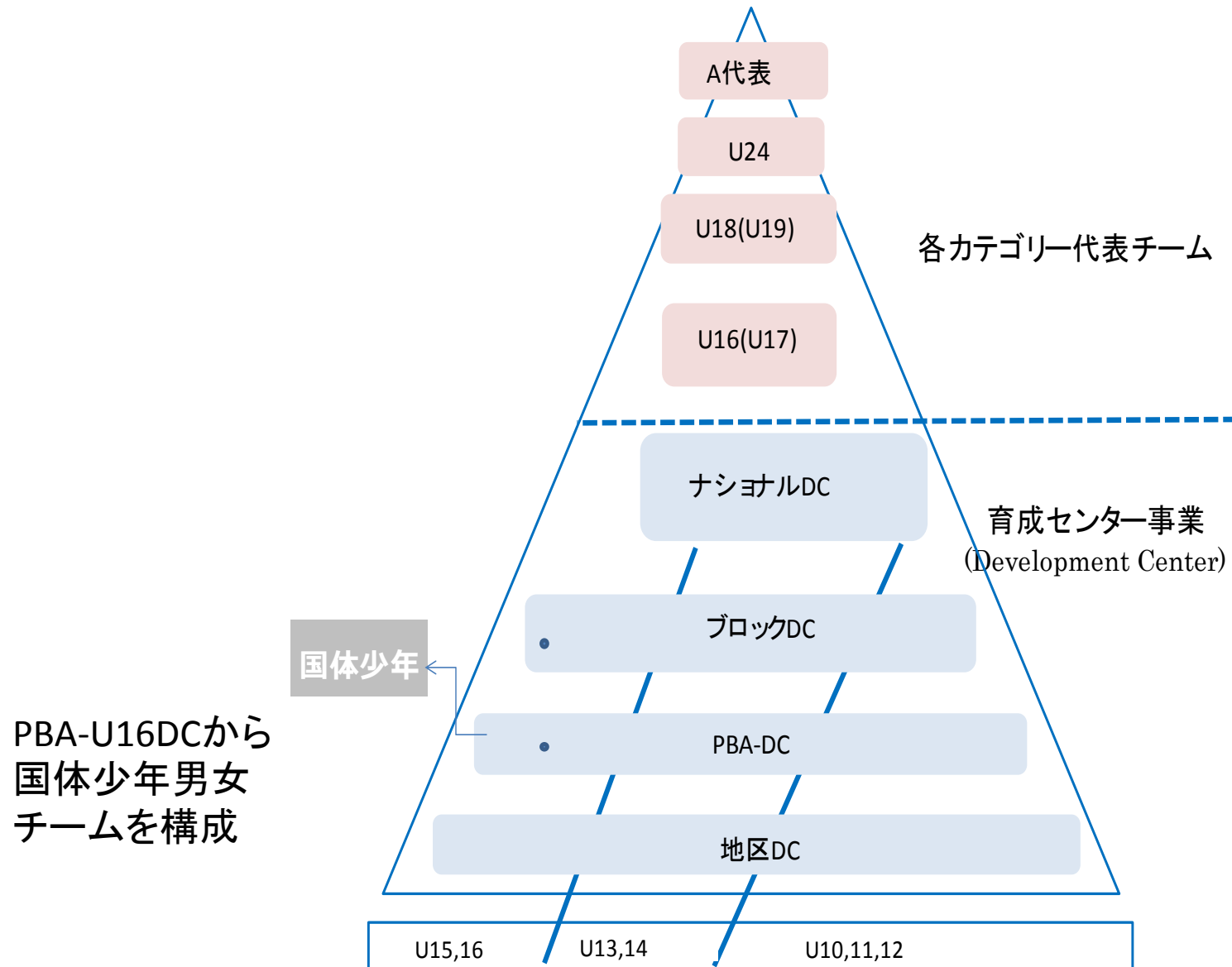


Ⅱ 育成センターの構造



育成センターの将来像

- ・2018年度よりエンデバー事業を「育成センター(Development Center)事業」と名称変更する
- ・都道府県育成センターが育成活動の中心となる
- ・各年代の将来有望選手候補育成をナショナル育成センターにて実施する
- ・2019年度以降、経費を都道府県 DC (D-fund)、ナショナル DC により多く充当する

発掘方法論

- ・複数回の都道府県育成センター活動により、数回のトライアウトを経てより有望な選手の発掘
- ・都道府県内の有望選手の情報収集をより密に行う
- ・早熟発掘と晩熟発掘を理解し、男女の差異に留意しながら選手を選出するこれまでと異なる方法論
- ・県推薦枠は廃止、力のある基準を満たす選手を発掘しナショナル育成センタートライアウトに推薦
- ・都道府県 DC→ナショナル DC トライアウト→ナショナル DC
- ・都道府県格差を埋めるために発掘担当の人材を任命

育成方法論

目標年 10 回、月 1 回の複数回実施により、選手に刺激を与え、意識を持たせる
チーム作りではなく、選手作りを目標とする育成コーチングの周知徹底
オールラウンダー育成+特化した能力のより向上を目指すコーチング

指導者教育（伝達）方法論

- ・「どのように指導すべきか」を理解してもらうための育成コーチング資料準備
- ・「何を指導すべきか」育成世代に必要な指導内容を理解してもらうための習熟度別資料準備
- ・都道府県育成センター活動を通じて指導者間で何が必要となるのかを検討する機会を持つ

普及方法論

- ・他県交流戦を各都道府県裁量で実施して頂くことを推奨
- ・地区育成センターの実施によってより多くの候補選手に目指すものを伝えていく